

「がんばる農林漁業者」

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動 推進本部
(福島県農林企画課)

「がんばる農林漁業者」は、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の一環として、福島県の農林水産業の復興・再生に向けて先進的な取組をされている方々を紹介しています。



牛群管理システム活用で省力化を目指す 有限会社関根ファーム せきね やすし 関根 靖さん (鮫川村)

関根ファームは先代の社長が2頭の乳牛から始めた農場で、現在、165頭の経産牛(乳を搾る牛)と80頭の育成牛(まだ乳を搾ったことのない牛)を飼養しており、県内屈指の農場です。

今の農場に移転してから、牛が自由に動き回るフリーストール牛舎や、一頭ずつ首にインデックス(タグ)を付け乳牛を識別し搾乳量を記録する牛群管理システムなどを導入し、飼養管理の省力化や高品質な生乳の生産に取り組んでいます。

牛群管理システムと昔ながらの手作業とを上手く組み合わせることで、労働力の省力化を図りながら、機械では見つけられない病気の早期発見に努めています。そのため、生乳の体細胞数(生乳の品質や乳牛の健康度合いを見るのに使われる数値)も健康な値を示しています。



(写真右が関根靖さん)

まだ30代で若手の酪農家である靖さんは、先輩である父や母に酪農を教わるとともに、自家用飼料の増産や堆肥の有効活用など、自らも工夫して経営の安定化を図っています。

地元のJA直売所「みりよく満点物語」(棚倉町)では、関根ファーム産の牛乳やソフトクリーム、生菓子を味わうことができます。どれもとてもおいしいですので、お近くに行かれた場合は、是非味わってください。

取材日:平成27年3月3日

取材者:県南農林事務所 渡辺





果実（くだもの）の美味しさを伝えたい

だて すいみつえん さとう ゆうき ひろき
有限会社伊達水蜜園 佐藤 佑樹さん、宏樹さん（伊達市）

佐藤佑樹さん、宏樹さん兄弟は、父・浩信さんの指導を受けて、果樹栽培と加工品の開発に取り組んでいます。

「果実の美味しさは冬の間に行う剪定（せんてい）で決まる」というのが、市場関係者から奇跡のりんごと絶賛される「蜜入り紅玉」をつくりあげた浩信さんの口癖だそうです。

浩信さんのチェックは厳しいけれども、技術を継承して名人技を習得したいと佑樹さん。

加工担当の宏樹さんは、「6次化商品は規格から外れた果実等を使うことが多いのですが、おいしい果実から作る加工品はやはりおいしいものに仕上がるので、旬にこだわっています。」と話してくださいました。



（写真左が佐藤祐樹さん、右が宏樹さん）

首都圏の女性層をターゲットにした、価格競争に巻き込まれない付加価値の高い新たなりんごジュースの開発がこれからの目標とのこと。

ちょっとシャイなお二入が丹精込めて育てた果樹から収穫される果実は、甘いばかりではなく、酸味や香りという果物の良さを多くの人に伝えたいという、ご兄弟の真っ直ぐな思いがこもったおいしさです。

取材日：平成 27 年 3 月 13 日

取材者：県北農林事務所 松田、高野

取材にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

がんばる農林漁業者は、
ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動の
ホームページからも見るができます。

食とふるさと

検索

